



No. '24-1

(No.116)

Jan. 2024

# ISGG NEWSLETTER

## 伊東市善意通訳の会

### C O N T E N T S

1. リュウビンタイ（龍鬚帯）	菊池善次郎	2
2. My First Winter	ALT Shimeika Brownn	5
3. 2024年干支「辰年」のはなし	小西恒男	7
4. 35日間航空機世界一周の旅（前編）	野満勝二	11
【事務局便り】		15
【編集後記】		17



K's サロンにて

## リュウビンタイ（龍鬚帯）



会員 菊池善次郎

「明けまして、お・・・」と、書きかけたところで手が止まりました。「おめでとう御座います」とすんなり続けられない気持ちです。元旦早々から大地震や航空機の大事故が発生、日常が日常でなくなった人が大勢いる中、素直にはお目出度い気持ちにはなれません。1月1日午後4時過ぎ能登半島大地震発生。日が経つにつれ被害の全容がだんだん分かってきました。山は崩れ道路は割れ、民家はつぶれビルは根元から倒れ、停電・断水・ガス/トイレなし。海底が4m以上隆起し漁港がなくなった。大勢の人が着の身着のまま逃げ寒さに震えています。死者200人を超え、安否不明者がまだ多くいると。住宅の全壊/半壊約2000棟、避難生活者約2万4000人（1月11日現在）。まだ時々揺れてます。

そして1月2日夕方6時、東京羽田空港に於いて着陸中のJAL旅客機と離陸中の海上保安庁の輸送機が滑走路上で衝突/炎上/大破と云う未曾有の事故が発生しました。幸いJAL乗務員と乗客の奇跡と云われる素早い行動で燃え上がる旅客機から全員が脱出、一人の犠牲者も出ませんでした。海外のニュースでは「奇跡の脱出18分」と乗員・乗客の退避行動を称賛していました。海保機は能登半島地震の救援に向かう途中の事故でした。乗員6名中機長を除く5名の方が亡くなりました。

1月3日には九州JR小倉駅近くの商店街で大規模火災が発生、35店舗が焼失のニュース。その他東京山手線の電車内で女性が乗客に刃物で切りかかり4人が負傷した事件など報じられましたが何れも能登半島地震と羽田空港飛行機事故の二大ニュースに影が薄れてしまった感じでした。

インターネットニュースによると世界でもいろいろあります。ロシア/ウクライナ戦争はますます激しさを増しています。イスラエルのパレスチナ・ガザ地区ハマスへの攻撃は日ごとに悲惨さを増しています。パレスチナ側の死者数は2万3843人、負傷者が6万317人（1月13日現在）。犠牲者は主に女性と子供だと云う。

又、私が現役時代は平穏無事な海だった紅海(Red Sea)は今や世界の船員にとって戦場同様です。私の勤めていた会社の自動車専用船”Galaxy Leader号“48,000トンが昨年11月紅海でイエメンの反

政府武装勢力フーシに乗っ取られた時の映像は皆さんもテレビニュースで見られたことと思います。その後これまでに紅海や近くのアデン湾でフーシによるミサイル/ドローン等での船舶への攻撃は26隻(1月12日現在)を数えるとのこと。又、ペルシャ湾に近いオマーン湾で1月11日ギリシャの会社が運航する大型タンカーをイランが拿捕すると云う事件が発生しています。イラン国内ではテロによる爆発で100人近い人が死亡しています。

国内も、又、世界でも、何か騒がしい事件・事故・災害、紛争のある中、新しい年が進み始めました。

前置きが長くなりましたが本題に入ります。2024年(令和6年)、今年は「辰」年です。動物では「龍(又は竜)」です(架空の動物ですが)。辰年、即ち龍年に<sup>ちな</sup>因んで「リュウビнтаイ(龍鬚帯)」と云う植物を紹介します。20年近く前、伊東自然歴史案内人の認定証取得のための現場ガイド研修の時講師の先生から教わって知った植物です。その後日本人のガイドや外国人のガイドの時は珍しい植物なので現場で説明をしてきたところ。伊東市にあり、しかも国の天然記念物でありながらあまり知られていない植物ではないかと思えます。暗く湿気のある所で育ち花も咲かない植物で、どこにでもあるという植物ではないのでポピュラーではないのかもしれませんが。

#### ●なぜ名前が龍鬚帯(リュウビнтаイ)か?

写真で一目瞭然。ツヤツヤした葉が龍の鬚<sup>びん</sup>ヒゲにそっくり。



リュウビнтаイ (龍鬚帯)  
(2024年1月4日 筆者撮影)



龍の鬚<sup>びん</sup>ヒゲ(顔の左右のヒゲ)  
(無料イラストからコピー/加工)

別説で根茎の株が龍の鱗<sup>うろこ</sup>の様だから龍鱗<sup>リウ</sup>と云い、それが何時しか「リュウビン」になったとも云われます。しかし龍の鬚<sup>びん</sup>ヒゲの方が納得力あり。

### ●伊東の何処にある？

伊東市八幡野区八幡宮来宮神社の境内及び神社のまわりの山裾に自生。国指定天然記念物の看板あり。インターネットのマピオンマップには“リュウビンタイ”の表示があり場所が示されている。

以前は今より群生していましたが少なくなっています。



### ●何故国の天然記念物？

その前に八幡宮来宮神社について少し説明。伊東の八幡宮来宮神社は今から 1200 年以上前の西暦 700 年代の後期に創建された神社です（その後増改築あり）。今年の NHK 大河ドラマの主人公紫式部や藤原道長等が活躍するもっとも前の時代です。当時の有名神社リストである「延喜式神名帳<sup>えんぎしきじんみょうちょう</sup>」に名前をつらねる由緒ある神社です。

そんな訳で神社の社叢<sup>しゃそう</sup>（周りの森）は人の活動の影響をあまり受けず自然が保たれています。

社叢には樹齢 1000 年の杉、タブノ木、イチイガシなどあり、又、カギカズラ、フウトウカズラなどツル植物もあり、林床の地面にはリュウビンタイ、ハナミョウガ、ハイホラゴケなどが見られ、『日本列島の温かい地域（暖地）の山地に成立する常緑・照葉樹林の典型的状態を示している』として神社の森一帯が国の天然記念物として指定されました（昭和 9 年）。



伊東市八幡宮来宮神社と 1000 年杉

特にリュウビンタイは伊豆の当地が日本列島に於ける自生地<sup>（自生地の北限）</sup>であるとされています。

この様にリュウビンタイは社叢の植物の一つとして国の天然記念物となっています。

#### ●その他リュウビンタイの特徴

常緑性大型シダの一種。多湿な深い森林の中に生える。葉が大きく肉厚でツヤツヤ照り太く丈夫そう。根元から葉先まで2~3mもある。花は咲かない。伊豆半島以西・四国南部・九州南部・沖縄に分布。台湾、中国にもあると云う。根茎の株は20~30cmでゴツゴツした鱗<sup>（うろこ）</sup>状。鉢植えの小さいものが観葉植物として花屋さんでも売られている。

伊東にあり、国の天然記念物でありながら暗く湿り気のあるところに自生・群生する為かあまり目立たず華やかでない植物のリュウビンタイ（龍鬚帯）、今年の干支<sup>（えと）</sup>に因んで一度ご覧になられたら如何ですか。ご利益があるかもしれませんね。

## My First Winter



ALT Shimeika Brown

Hello everyone, this is my first year in Japan so I am experiencing many things for the first time. Japan is a world of many new and exciting things but today I want to write about winter because for me that is new and exciting. Spending my entire life in

Jamaica, a country known for its warm weather all year round and only traveling to warm countries, my only reference for what winter was like were movies and the inside of the refrigerator. Many people in my country go their entire life never experiencing winter because the coldest the temperature gets is about 25 degrees and that would be considered a very cold day.

So you can imagine my surprise and disdain when I check the weather app most mornings and it's 5 degrees give or take. It goes without saying this season has been very... different than what I'm use to. There are many things I don't like about winter like the rashes I got from the sudden change in temperature, my hands freezing all the time, the sun setting early making it even colder and worst of all no more going to Orange beach.



Nonetheless there are so many things I do enjoy about winter. I love the oranges I get ever so often from my school, all the seasonal hot foods and the vending machines carrying warm beverages that have kept me warm at the train stations. I also enjoy snuggling up under my kotatsu on Sundays watching my favorite shows. But the best part of winter is that the onsens are 100 times better in this weather, my favorite onsen currently is Ryokufuen.

This winter has truly made me more appreciative of the little comforts in life and I have many happy memories of it but I still can't wait for summer.

**Shimeika at the Party**



## 2024年の干支「辰年」のはなし



会員 小西 恒男

### 1) はじめに

2024年が始まった。今年は干支（えと）で表わすと、甲（きのえ）・辰（たつ）の年となる。

10干は中国古代の世界観で、木・火・土・金・水の5要素と各要素に陰と陽の2面性を持つという概念で、これが日本では陰と陽が兄（え）と弟（と）に変わり10干が出来上がった。

甲（きのえ）の年は西暦年の下1桁が4年になる。

例えば阪神タイガースの本拠地「甲子園」球場が出来たのは1924年（大正13年）で、この年がきのえ（甲）・ねずみ（子）に当たることから命名されたことが容易に推測される。

12支では「辰」という漢字を使用するが、これは龍（または竜）を意味する。

12支は中国で紀元前から暦（年や月）を表すために使用されていた。これを動物で表示する由来については比較的よく知られている話ではあるが取り上げてみよう。

資料によると、中国後漢（紀元1世紀頃）、王充（おういつ）という学者が12匹の動物に見立てて考えたというのが通説である。

これが日本では次のような逸話として伝えられている。

神様が犬みそかの日に動物に次のようなお触れを出す。

1月1日の指定時刻に神の元に来た動物から順位をつけて後世に名前を残す…と。

#### ①最初に到着したのはネズミ（1番）と牛（2番）

牛は1番乗りを果たそうと前夜から行動を起こしたが、ネズミはちゃっかりと牛の背に

乗り、ゴール寸前で飛び降り牛より先にゴール

②虎、うさぎ、竜、蛇、馬、羊の順（3～8番）でゴール

③犬と猿は犬猿の仲でケンカをしながらの道中であつたため、見かねて鳥が仲裁に入る。

結果的に猿、鳥、犬の順でゴール

④最後にゴールしたのが猪。実は最初に現れたのは猪であつたが、時間前であつたのと、猪突猛進でブレーキが利かず大回りしてゴールしたために最後の到着となった。

このように12匹の動物が選定されたが、選定に洩れた2匹（いたちと猫）についての話である。

・イタチ 13番目でゴール。なんとか名前を残してほしいと神に懇願。神様も哀れに思つて

1日（最初の日）を「ついたち」の名前で残すことにした。

・猫 ネズミが1日遅れの誤った情報を与え、競争から脱落させた。後で知つた猫はネズミを

仇のように憎む。以後猫がネズミを追いかける所以となる。

## 2) 辰について



12支の5番目の辰は龍（または竜）を表す。龍は東洋では神話や伝説上の生き物である。

中国の龍は神獣、靈獣として考えられ、皇帝のシンボルとして扱われている。

水中や地中に棲むとされ、その啼き声は雷雲や嵐を呼び、又竜巻となって天空にのぼり自由自在



に飛翔するといわれている。

日本の龍はもともと自然を神として崇拝する信仰と、中国から伝来した龍と融合して出来た。

初代神武天皇は龍の腹から生まれたとされている。

龍は水とのつながりが深い。

インドではナーガと呼ばれ、蛇神で水神を表わす。

釈迦が生誕した際、二匹の龍が清浄水をそそぎ、成道時（悟りを開いた時）には7日間降り続いた雨を龍が釈迦の身を覆って保護したといわれている。

中国では仏教が伝来する前に中国の龍は既に雨水をつかさどるイメージを持っていた。

日本でも治水や灌漑技術が未熟だった時代には、河川の氾濫や旱魃が続くと、龍神に食べ物や生贄をささげる習慣があった。

スサノオノミコトが八岐大蛇（やまたのおろち）を殺し、生贄となった櫛名田姫を救う話は良く知られている。

龍は日本ではさらに戦の神として民間伝承の対象として各地で広まった。

剣（つるぎ）は炎の龍の化身とされており、八岐大蛇から生まれた剣 — 天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ） — は天皇を表す3種の神器として祀られている。中世では刀剣、兜に龍をかたちどり、戦が行われた。

西洋（ヨーロッパ）でも龍は伝承や神話における伝説上の生き物である。もとは天使で、天上から墮ちた天使とされている。その姿はトカゲあるいは蛇に似た想像上の動物であるとされている。

英語で “dragon ” であるが、恐竜をはじめとする爬虫類の種名に用いられる “saurus” も龍が用いられている。小さい龍や龍の子は “dragonet” という。

### 3) 龍に関する言葉、ことわざ

龍に関係することわざや慣用句、格言は多く見られるが、そのうちのいくつかを紹介する。

① 登竜門

中国黄河の中流域に「竜門」と呼ばれる急流で有名な場所がある。ここを無事登った鯉は龍になるという言い伝えから、困難であるがそこを突破すれば立身出世出来る関門の意、または運命を決める大切な試験をいう

端午の節句（こどもの日）の鯉のぼりの習慣はこの故事からきている

② 竜頭蛇尾

頭は竜のように立派だが、尾は蛇のように尻すぼみになるという意味から、始めは勢いが盛んであるが、終わりは振るわないことのたとえ

③ 臥竜点睛

わずかなことであるが、それを加えることで物事が完成、成就することのたとえ

④ 虎口を逃れて竜穴に入る

一難去ってまた一難の意

⑤ 竜虎相搏つ

竜虎は力量の伯仲した天下を二分する英雄のたとえで、互角の力を持った者同士が激しく争うこと

⑥ 逆鱗に触れる

竜の喉の下の逆鱗に触れると、竜が怒って人を殺したという言い伝えから目上の人を激しく怒らせること

4) 甲辰（こうしん）年の出来事

甲辰の年の過去の出来事（60年周期）を調べてみた。大きな出来事は少ない。

2件がヒットした。

1) 1964年（60年前） 第1回東京オリンピック開催

昭和39年アジアで初めて開催されたオリンピックであった。

メダルは金16、銀5、銅8個（合計29個）を獲得

レスリング、柔道、体操等で日本選手の活躍は目覚ましいものがあった。

特に女子バレー決勝でソビエト連邦チームを破り金メダルを取った「東洋の魔女」と呼ばれた日本チームの活躍は今でも語り草となっている

## 2) 1904年(120年前)日露戦争

明治37年 朝鮮と満州の支配をめぐり日露で戦争を始める 翌年日本の勝利で終戦

最後にずっと昔の記憶、学生時代に京都に行き、ある寺で鳴き龍を見学したことがある。本堂の天井に龍が大きく描かれていたのを覚えている。ネットで調べてみると相国寺の鳴き龍が見つかった。どうやらそこを訪問したらしい。懐かしい思い出である。

2024年の今年、辰(龍)は暴れることなく静かに、そして社会の守護神として、人々を災害から守ってほしいものである。

## 35日間航空機世界一周の旅

### (前編)



会員 野満 勝二

ブックマン社刊・たかせ藍沙著「ファーストクラスで世界一周」などに触発され、ファーストクラスを利用しての航空機世界一周の旅を思い立って数年、コロナ騒動がようやく沈静化の兆しを見せ始めつつあった2023年3月、妻と有楽町のJALプラザを訪問した。昼過ぎから夕刻まで、担当者の懇切丁寧なアドバイスを受け、全ルートの航空機の予約まで済ませた。JALが加盟するワンワールドグループの幾つかのルールに基づき、次回以降のフライト確保にもつながるマイレージ獲得を視野に入れた、ジグザグコースも含め、飛行距離無制限、最高値となる6大陸ではなく、最安値となる3大陸(アジア、北米及びヨーロッパ・中東)をカバーする最大限度16フライトのコース設定を行った。

JALのほか、英国航空（ブリティッシュエアウエイ）、キャセイパシフィック航空、カタール航空などがワンワールドグループに属するが、これらの航空会社の16フライトのうち、ファーストクラス利用可能ルートが5フライト確保できたものの、他はファーストクラスの就航がなく、やむなく、次善のビジネスクラスの座席を予約し、9月15日から10月20日までの35日間の旅程が確定した。最終的に、当初予定したインドのデリーから羽田までのビジネスクラスのフライトを、JALがバンコクから羽田までのルートを開設したためこれに変更したことに伴い、最終的にファーストクラスは6フライトとなった。

まず、初日に羽田からニューヨークに向かい、10日程度アメリカ国内の何都市かをジグザグに飛び、その後、ヨーロッパのロンドン、アテネ、マドリード、バルセロナを経て、再びロンドンに向かい、折り返し、香港経由を経由し、クワラルンプール、バンコク滞在の後、10月19日、バンコクから羽田までのJAL便で締めくくった。

懸念材料であった留守宅の管理と犬の世話を、隣町に住む息子に依頼することとした。片道1時間の遠距離通勤を余儀なくさせることとなった。また、大阪市内の施設入所の高齢の母のことも気になっていたところであり、6月上旬のエジプト旅行は完結できたものの、最悪、旅の中止まで覚悟しての決断だったが、その母が7月2日に急逝し、葬儀も無事に終えることができたこともあり、母に背中を押されるような形でスタートし、最終的に35日間の長旅を

全うすることができた。

9月15日夕刻、羽田発ニューヨーク行JAL便出発前の羽田空港が突然の雷雨の影響を受けたことにより、1時間程度遅れての離陸となった。ファーストクラス8席の内、私たち2名のほかには1名の日本人乗客のみで、キャビンアテンダントからほぼマンツーマンの対応をいただく豪華な旅となったものの、



イナーもあわただしい雰囲気の中で済ませ、幻の焼酎森伊蔵 アメリカ入国の証、ニューヨークの象徴のお湯割りをいただき、「銀河鉄道の父」を鑑賞しつつ、フルフラットの寝床につき、きわめて高価な睡眠時間を貪ることとなった。日付変更線を越え、眠い目をこすりながらの朝食も、ユーチューブなどで紹介されていた状況とは異なり、義務的に終えたことは心残りであった。

同日ほぼ同時刻、ニューヨーク JFK 空港に到着事前に何度もシミュレーションを行ったにもかかわらず、マンハッタン南端のホテル到着までに多くの時間を要した。悪評が伝わっていた地下鉄に乗り込み、最寄りの駅に到着したのは夜遅く、乗降客の途絶えたプラットフォームにたたずんで、多少の薄気味悪さを覚えた。さらに、20kgを超えるトランク2個を抱え、リフトもエスカレーターもない中で、「さて、道路のある地上階まで上るにはどうしたものか。」と思いあぐねていたところへ、我々老夫婦の窮状を見かねた通りがてらの白人青年、黒人青年がそれぞれトランクを1個ずつ、軽々とトランクを運び上げていただいた。黒人青年などは、もう一方の手で自転車を携えながらアシストいただき、アメリカ上陸後初めての親切な対応に好印象を抱いたところである。

翌日、アルファメニューのキノコご飯、ピラフの朝食を済ませ、私は2回目のニューヨークとなったが、無料のフェリーに乗り込み、再び自由の女神を遠くから眺め、ブルックリン橋を渡り、セントラルパークで昼寝をするなど、ほぼ10年ぶりの束の間のニューヨーク散策となった。奇しくも、市内からJFK空港までの電車の中で中米ホンジュラス出身の家族と親しくなり、写真をとるなど、親しくなったこともエピソードの一つである。

9月17日、JFK空港のラウンジを活用し、円安対策の一環となる栄養補給に努めた。午後7時30分、ロサンゼルスへ向け飛び立ち、深夜にホテルに到着。翌18日、バスと電車を乗り継ぎハリウッドに向かった。バスの運転手が黄さんという台湾出身の年配の方で、誕生日にはラスベガスに招待をされるほどカジノの常連さんとのことであり、最前列に座った私たちに対し



自然の造形美アンテロープを堪能

フレンドリーに語りかけ、遠い異国の地で人生をたくましくエンジョイされている姿が伝わってきた。

ランチタイムには、日本人観光客にも人気のハンバーガー店 IN—N—OUT でハンバーガーを頬張った後、サンタモニカに向かった。日本では見かけることがないスケールの大きな海水浴場という印象かと思う。しばらく散策し、人波をかき分け、近隣のバス停留所からバスに乗り、ホテルに向かった。

既に何日か分の洗濯物がたまっていたため、ホテル内のコインランドリーを利用しようとしたが、コインも使えず、クレジットカードも使えないなど、悪戦苦闘の末、最初の洗濯、自然の造形美アンテロ

ープを堪能乾燥まで片付けた。

結局、今回の旅の中で、トータル5回、コインランドリーを利用したが、それぞれ利用客、スタッフと身振り手振りも交えながら話をするなど、交流の機会を得たことも、自作自演の旅の醍醐味であったかと思う。

9月19日、ホテルから空港までのシャトルバスの車内で2人連れの日本女性と出会う。ディズニーランドで遊び、アナハイム球場に大谷翔平選手に会いに行ったとのことであった。また、ドイツからのツアー客の中に日本語を学習中の若い女性がおり、太宰治、谷崎潤一郎、織田作之助のファンであると聞かされ、驚いた。たまたま太宰治の人間失格を読んでいるとのことであり、私も彼女に見習い、旅の途上、電子書籍でこれを読了した。

9月19日、午後2時、シアトルに向け出発。イチロー選手活躍の地でもあったが、アメリカ国内をジグザグに飛び、マイルを稼ぐ旅程上、通過宿泊地として選定した程度であり、特にホテルから外出することもなく、雨模様の空をながめつつ眠りについた。

9月20日、ラスベガスを目指しシアトルを出発。

ピラミッドをイメージしたホテル「ルクソール」に宿泊。

円安ドル高の状況下、アメリカ国内の高物価は覚悟の上であったが、飲料水が高額であり、500mlで5ドル以上、後日出会った日本人観光客からは7ドル支払ったと聞き驚かされた。ネット検索では、幸いアメリカの水道水は



飲料可とのことで、念のため、持参のポットで水道水を沸騰させて淹れた緑茶などをストックしつつ、持参のアルファ米、カップ麺で腹を満たした。アメリカ国内においてやむなく外食の際はピザとハンバーガーのみという食生活が定着した。円安の影響を実感したが、10年以上前にアメリカを訪問した際の1ドル80円ほどの古きよき時代を偲び、改めて耐乏生活を覚悟したところである。

9月21日、グランドキャニオンなどを訪れる1泊2日のグランドサークルツアーに参画するため、午前6時にホテル前に集合し、大型バンに乗車した。ルート66保存運動の聖地、パワースポット「セドナ」を訪れたほか、グランドキャニオンの夕焼け、朝焼け、アンテロープキャニオンなどを目に焼き

付けることができた。日系人のガイド兼ドライバーの案内による日本人のみ9人のツアーであり、アメリカの大自然を満喫する有意義な旅となった。夕食は、それぞれ野菜サラダを注文し、アメリカンサイズのピザを2人で分け合った。初日のランチは和風弁当が支給されたが、2日目はレストランでの中華バイキングとなり、一息つくことができた。1,100 kmの走行を終え、9月23日、夜遅くラスベガスに戻り、金曜日の夜の大渋滞を横目に、週末料金となって料金が跳ね上がったホテル「ルクソール」から、預けていたトランクを受け取り、ラスベガス最終泊となる無料宿泊クーポン利用可能であったホテルまでの間を徒歩で移動した。

### 【事務局便り】

1月早々、能登半島地震が起こり、大変な年明けとなりました。 当会の会員の我々も地震対策の見直しと共に被害地域への援助をできる範囲で考えていきたいですね。

さて、当会の月例活動であるイチゴサロン、土曜会、K's サロン及び英語サロンは順調に開催されています。 それ以外の活動としては11月に開催した熱海高校ALTのEthanのご両親の歓迎会/観光案内があります。 楽しく充実した時間を一緒に過ごす事ができました。 又、12月には当会の忘年会をALT達も参加してくれ盛大に行いました。

又、今は2月25日の第4回英語講演会にむけて、会員一同、ポスター張り、過去の参加者への連絡等、準備に頑張っております。

24年2月25日に予定されているアメリカ人 Mary Ashleigh 氏による講演題名「マリリンモンロー：変革の旅 in Japan」です。 この題材はマリリンモンローとアメリカの英雄ジョーディマジオ夫妻の新婚旅行での来日がこの2月でちょうど70年目という事もあります。 かわいくセクシーな若手女優で有名野球選手の引き立て役だったマリリンモンローが日本での夫をはるかに上回る大フィーバーの経験を経て大きくスーパースターへと変身していく話とそしてその大フィーバーがまだまだ敗戦からの復興途上の日本に与えたインパクトについての講演です。 今回は川奈ホテル様のご厚意により夫妻のハネムーンにふさわしく日本が誇る川奈ホテルにて講演を行います。 来場していただいた皆様が楽しく感慨深い集いになると確信しております。 今後も素晴らしい講演者を迎え興味深い題材を提供していく予定です。



伊東市善意通訳の会  
Ito Systematized Goodwill Guide

## 第4回英語講演会

伊東市善意通訳の会が皆様に送る気  
軽で楽しい英語の講演会

講師紹介： **Mary Ashleigh**

ドキュメンタリー作家/プロデューサー  
自然と動物に関する著作等多数  
日本生まれ 現在横浜在



講演題名：

**マリリンモンロー：変革の旅 in Japan**

令和6年2月25日（日）

川奈ホテル大会議室

入場無料（少額寄付歓迎）

予約： 090-3308-3220（ヌシハラ） 講演時間： 約1時間

[larryn@estate.ocn.ne.jp](mailto:larryn@estate.ocn.ne.jp)

（その後30分程の質疑応答）

**70年前に野球界のスーパースター、ジョー・ディマジオとの新婚旅行で来日したマリリン・モンロー。日本での経験が彼女をトップ女優へと変えていく。**



主催：伊東市善意通訳の会

後援：伊東市 伊東観光協会 伊東国際交流協会（株）シースイエー  
（株）伊豆新聞本社 川奈ホテル IZUVIAN REPUBLIC



## 【編集後記】

2024年最初のNewsletterをお届けいたします。

菊池さんが冒頭で書いていらっしゃるように、元旦の大震災のショックで新年のご挨拶の言葉が出てきません。

能登半島をはじめとする北陸の皆様には心からお見舞い申し上げます。寒さ厳しく、天候も悪い中、1か月以上たっても復興が思うようでない現状を聞くにつけ、何とか一日も早い復興の道筋が立つように祈るばかりです。

菊池さんの原稿にあるリュウビンタイは10年以上前 ISGG で研修をした時、八幡野の来宮神社の奥の方で見た覚えがあります。ごつごつした厚みのある、男性的なシダだった記憶があります。

小西さんも龍について、興味深いことをいろいろ書いてくださいました。たしかに龍は伝説の強い生き物・・・天災にも負けない強い年になってほしいです。

ALTのShimeikaさん、投稿をありがとうございました。今年は暖冬と言われながらもこれから本格的な寒波がくる予報です。Shimeikaさんにとってまた新しい経験と発見ができますね。

野満さん、ファーストクラスで世界一周の旅とは夢のような話ですね。自分で立てたプランで奥様と二人で長旅ができるのは本当に幸せなことと思います。後編も楽しみにしています。(N. I. 記)

伊東市善意通訳の会 (ISGG)

会長 稲葉 尚子

(事務局) 413-0232

伊東市八幡野 1324-40 主原 一雄

e-mail : larryn@estate.ocn.ne.jp

<http://itosgg.info/>

(編集委員) 稲葉尚子、曾我廣子、加藤達雄